（別紙報告様式）

鳥獣被害防止総合対策事業の評価報告（令和8年度報告）

1　事業評価報告

市町名：三原市

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始時期	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績 獣種	被害金額 現状値	被害金額 目標値	被害金額 実績値	被害金額 達成率	被害面積 現状値	被害面積 目標値	被害面積 実績値	被害面積 達成率	処理頭数 現状値	処理頭数 目標値	処理頭数 実績値	処理頭数 達成率	事業実施主体の評価
三原市鳥獣被害防止対策協議会	三原市全域	令和5年度	イノシシ シカ カワウ ヌートリア アライグマ サル	狩猟免許講習会受講料補助	14		R5.6		狩猟免許新規取得者に対して補助を行うことで、狩猟免許の取得を促進することにより地域の有害捕獲の担い手を育成した。	イノシシ シカ カワウ ヌートリア アライグマ サル	8,010千円 892千円 11,945千円 － － －	5,607千円 624千円 8,362千円 － － －	5,737千円 399千円 3,545千円 84千円 － 4千円	94.59% 183.96% 234.44% － － －	6.62ha 0.95ha － － － －	4.63ha 0.66ha － － － －	5.62ha 0.98ha － 0.08ha － 0.02ha	50.25% −10.34% － － － －					三原市では、有害鳥獣対策に携わる担い手を育成するため、狩猟免許講習会の受講料の一部補助を実施し、3年間で39名に対して交付を行った。これにより、有害鳥獣に携わる人員の増加が図られた。 有害捕獲については、当初計画（R5年度～R7年度）においてイノシシ3,900頭、シカ900頭の捕獲を目標として掲げた。3年間の実績は、イノシシが3,187頭、シカが1,150頭となった。イノシシについては豚熱の影響もあり目標を下回ったものの、シカは目標を上回る成果を収めた。 また、カワウの被害対策として、繁殖抑制を実施したことで被害の軽減につなげることができた。 さらに、ICT機器の導入により迅速な捕獲対応と作業の省力化を実現した。 これらの取り組みの結果、三原市全体の野生鳥獣による被害額を目標値内に抑えることができ、鳥獣被害防止総合対策交付金事業の活用による被害防除に一定の効果を確認できた。
				生息状況調査	1回		R6.2		カワウの生息状況調査を行い、実際の対策につなげた。														
				緊急捕獲 イノシシ成獣 イノシシ幼獣 シカ成獣 シカ幼獣	 839 266 379 21				対象鳥獣を捕獲することにより、個体数調整ができ、被害防除に一定の効果があった。														
	三原市全域	令和6年度	イノシシ シカ カワウ ヌートリア アライグマ サル	狩猟免許講習会受講料補助	13		R6.6		狩猟免許新規取得者に対して補助を行うことで、狩猟免許の取得を促進することにより地域の有害捕獲の担い手を育成した。														
				生息状況調査	4回		R6.12		カワウの生息状況調査を行い、実際の対策につなげた。														
				緊急捕獲 イノシシ成獣 イノシシ幼獣 シカ成獣 シカ幼獣 シカ特別対策 シカ成獣 シカ幼獣	 665 158 309 10 153 3				対象鳥獣を捕獲することにより、個体数調整ができ、被害防除に一定の効果があった。														
	三原市全域	令和7年度	イノシシ シカ カワウ ヌートリア アライグマ サル	狩猟免許講習会受講料補助	12		R7.6		狩猟免許新規取得者に対して補助を行うことで、狩猟免許の取得を促進することにより地域の有害捕獲の担い手を育成した。														
				生息状況調査	3回		R7.11		カワウの生息状況調査を行い、実際の対策につなげた。														
				ICT等新技術の活用 野生動物遠隔監視捕獲ｼｽﾃﾑ	1	協議会	R7.10		ICT機器を導入することにより、出没状況をリアルタイムで把握すると共に、捕獲機の遠隔操作や捕獲時の自動通知が可能となり、迅速な捕獲対応と作業の省力化を図ることができた。														
				緊急捕獲 イノシシ成獣 イノシシ幼獣 シカ成獣 シカ幼獣	 851 308 252 23				対象鳥獣を捕獲することにより、個体数調整ができ、被害防除に一定の効果があった。														

注1）被害金額及び被害面積の目標欄については、対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載してください。
注2）達成率の算出方法については「実績値（＝基準年値－実績値）／目標値（＝基準年値－目標値）」であるとして算出してください。
注3）被害防止計画の目標と実績の処理頭数の欄については、「ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組（販売拡大支援）」のメニューを活用した場合に記載してください。

2　第三者の意見

コメント：被害金額を目標値近くまたは目標値以上に減少させたことは、事業の目的である被害の減少を達成している。
事業による効果の評価には改善点もある。緊急捕獲により個体数調整ができとあるが、どの程度個体数の調整が出来たのか客観的な評価が必要と考えられる。
今後は、従来通りの捕獲数による評価を脱却し、個体数の増減に対する本事業の寄与とそれに伴う周辺地域の被害増減の関連を精査して評価することが望まれる。（農研機構畜産研究部門　堂山宗一郎）

注）第三者の名前・所属・役職等を記載のこと。